

深谷市社会教育委員会議からの提言

深谷市における地域の教育力の向上について

平成28年6月
深谷市社会教育委員会議

目 次

I. はじめに	P 1
II. 子ども部会からの提言	P 2
III. 大人部会からの提言	P 10
IV. おわりに	P 16
参考資料	P 17

1 はじめに

今日、少子化・高齢化や核家族化、都市化、情報化等の急激な社会環境の変化は、個人の価値観やライフスタイルの多様化を生み、人間関係の希薄化、地域における地縁的なつながりの希薄化など大きな影響をもたらしている。

さらに、産業のグローバル化等により雇用関係の変化を生み、働く人たちの仕事の忙しさが増し、心と時間の余裕がなくなってきている。その結果、地域への関心や活動への参加意欲を失わせ、自分たちの住む地域のことを知らない、さらに地域の団体や組織に入らない、指導的立場や役員のなり手がいない等々が、多くの地域で深刻な問題となっている。

以上のことが、いわゆる地域コミュニティの希薄化、地域の教育力の低下の要因となっているといえる。

そこで、深谷市社会教育委員会では、平成26年7月から平成28年6月までの2年間、「地域の教育力の向上について」を研究テーマに定め、調査・研究をし、そのまとめを深谷市教育委員会に提言することにした。

本調査・研究は、上記の研究テーマの下、「子ども部会」「大人部会」に分かれ、定期的に会議を開催し今回の提言に至った次第である。

II 子ども部会からの提言

1 子どもを育てる地域の教育力の向上について

今日、子どもの教育は、学校と地域が緊密に連携を図り、地域ぐるみで子どもを見守り、育てる取組がますます重要となっている。

そこで、「子ども部会」では、公民館及び地域における取組の現状と課題及び方策について検討し、学校との連携を視野に入れ、子どもを育てる地域の教育力の向上について提言することにした。

2 地域が関わる主な取組の現状と課題及び方策について

(1) 世代間交流事業の推進

公民館及び地域が子どもたちに伝統的行事や文化活動、スポーツ等の指導等を行う事業を実施し、世代間の交流を図る。

ア 公民館及び地域における事業の推進について

(ア) 取組の現状（平成26年度）

- a 文化芸術に関するもの…子ども芸術・文化推進事業「アーティスト倶楽部」、
文化芸術による子供の育成事業、かるた大会、小学生書道展、子ども絵画展、土器づくり教室
- b スポーツに関するもの…親子グラウンドゴルフ大会、親子サイクリング、ふれあいハイキング、バスハイキング、歩け歩け大会、なわとび大会、少年少女マラソン大会、青少年スポーツ大会、青少年スキー大会
- c 文化伝統に関するもの…竹馬づくり、十日夜、七夕祭り、まゆ玉づくり、
昔の遊び教室、もちつき大会、ミニ門松作り
- d その他…クリスマスおはなし会、みんなのふれあい祭り、マス釣り大会、親子料理教室、夏休み子どもお楽しみ会、親子映画鑑賞会、子ども映画会、
夏休みわんぱくランド、ふるさと子ども祭り、がんばル〜ム、
子ども体験学習事業、ホテル鑑賞会、渋沢栄一翁誕生会、
国蝶オオムラサキ放蝶体験、オリジナルうちわ教室、サケの稚魚放流、
お菓子作りと手品、防犯パトロール

(イ) 課題

- a 参加希望者数に対応できる募集人員の設定
- b 参加希望者の要望内容の把握と応えられる事業内容の推進
- c 指導者の発掘と育成

(ウ) 方策

- a 各公民館の独自性を生かした取組の開拓
- b 他地区の子どもが可能な限り参加できる体制作り
- c 公民館間の情報交換

イ ボーイスカウト運動の推進

(ア) 取組の現状

世界162カ国が加入している組織で、異年齢によるグループを構成し、学校教育では経験できない事を自然体験をとおして訓練する。指導者は、ボーイスカウト日本連盟が開催している訓練（研修）を受け、ふさわしいと認められた成人指導者である。4年に一度の日本ジャンボリー、世界ジャンボリー（2～3万人規模の長期キャンプ）があり、海外のスカウトとの交流が多く行われている。

(イ) 課題

- a 近年少なくなった自然体験
- b いろいろな体験をとおしての様々な分野の経験
- c 親子一緒に体験することで親子の触れ合い及び家庭内での共通の話題の提供
- d 子どもの自立心の向上
- e 他人への思いやりの育成など

(ウ) 方策

a ビーバースカウト隊（小学校1～2年生）

(a) 入隊時に隊長・副長と「やくそく」をし、実践して行う。

(b) 仲間と楽しく遊び、保護者、補助者は指導者の支援をし活動の安全と管理について援助する。

b カブスカウト隊（小学校3～5年生）

(a) 入隊時に隊長・副長と「やくそく」をする。

(b) スカウトは数人で組を作り、各組に保護者（デンリーダー）を置き活動する。

(c) スカウトは40項目全ての課題をチャレンジし、各自の心と技能を高める。

c ボーイスカウト隊（小学校6年生～中学3年生）

(a) 入隊時に隊長・副長と「ちかい」をたてる。

(b) スカウトは数人で班を結成しターゲットバッジ53項目に対し活動を展開し指導者やインストラクターの助言の下、最上位である” 菊スカウト章” 取得に向け日々努力する。(以下省略) なお、ベンチャースカウト隊(高校1~3年生)、ローバースカウト隊(18~26歳)もある。

ウ ガールスカウト運動の推進

(ア) 取組の現状

世界146の加盟国で組織され、「少女と若い女性のための可能性を最大限に伸ばし責任ある世界市民となれるよう」、約1,000万人の会員が活動している。少女一人ひとりの無限の可能性を引き出すために、Learning by doing(体験による学び)を重視し、「自己開発」、「人とのまじわり」、「自然とともに」の3つを教育のポイントとして様々な分野のプログラムを実施している。異なる年代・価値観の人との関わりの場を提供する事により、どんな状況下においても自分で考え、物事を決定し、行動を起こしていく力をはぐくみ、社会において変化をもたらすこと(チェンジエージェント)のできる女性を育てている。

(イ) 課題

- a 少女の心身の発達に資する教育プログラムの実施
- b 地球環境の保全及び自然環境の保護とその教育
- c 国際相互理解の促進及び国際交流に関するプログラムの実施
- d 指導者の育成

(ウ) 方策

会員の資格は、宗教、人種及び国の別なくガールスカウトの「やくそくとおきて」の基本理念を受け入れる人であること。ガールスカウトであるという意識と誇りや自信を持ち、少女が成長していくことをねらいとしたバッジシステムを活用し、次のような様々なプログラムに挑戦する。

- a テンダーフット(就学前1年) <育成目標>豊かな感性をもつ
- b ブラウニー(小学1~3年生) <育成目標>自分を表現する
- c ジュニア(小学4~6年生) <育成目標>仲間と協力する
- d シニア(中学生) <育成目標>体験をとおして自分を見いだす

なお、以上のほかに、レンジャー(高校生時代)、成人(18歳以上)がある。

(2) 小学生学習支援事業「がんばル〜ム」の推進

本市では、市内全小学校（19校）で、毎週土曜日の午前中、各小学校の図書室等を利用して、小学生学習支援事業「がんばル〜ム」を実施している。2学期からは1年生の参加が可能となる。参加費は年間3,000円、2学期からは2,000円（問題集、保険料を含む。）である。

ア 取組の現状

学年毎に統一の教科書に準拠した問題集（算数と国語）を持たせている。一人一人の進度に応じて、一般公募「ちいきの先生」がサポートしている。「がんばル〜ム」は、学習のみではなく、ハーフタイムを活用し、ちいきの先生、異年齢の子どもたち同士がふれ合うことも大切にしている。

イ 課題

- (ア) 個人差への対応、学習意欲の喚起、集中力の欠ける子どもへの対応、ちいきの先生としての子どもへの接し方
- (イ) トラブルなどへの関わり方、子どもの安全面や不審者対策等の鍵の管理
- (ウ) 保護者、ちいきの先生、マネージャー、サブマネージャーが連携した指導
- (エ) ちいきの先生の1人は地元在住者

ウ 方策

- (ア) 夏季休業を中心に行っているちいきの先生全員対象の研修会をさらに充実したものにしていく。
- (イ) 「がんばル〜ム」実施前に実施しているマネージャー、サブマネージャーの打合せ会議をより計画的に行う。
- (ウ) ちいきの先生の学習指導の充実や一緒に遊ぶ時間のメニューを考えるなどして、子どもの成長により影響を与える努力をしていく。

(3) 学校応援団の推進

平成26年度版深谷市立小・中学校「学校応援団」実践事例集（深谷市教育委員会平成27年3月）に全小・中学校の取組の成果及び課題等が詳細にまとめられているため、ここでは扱わないこととする。

(4) 学校教育・社会教育の連携

前述の(1)～(3)の各事業の実施に当たり、学校と地域の連携をさらに強化

する。

ア 取組の現状

- (ア) 世代間交流事業での組織とその取組
- (イ) 放課後子ども教室での組織とその取組
- (ウ) 学校応援団での組織とその取組

イ 課題

- (ア) 連携が必要な活動内容の整理をする。
- (イ) 学校教育及び社会教育のそれぞれのメリットを両者が相互理解を深めるために、研修会の開催が必要である。

ウ 方策

- (ア) 各学校が校務分掌に「地域との連携」を位置づけ、明確にする。
- (イ) 地域の資源を活かした教育活動を展開する。
- (ウ) 地域住民が企画・運営する地域行事を実施し、校区の学校を支援する。
- (エ) 学校支援コーディネーターと学校の担当者が十分な話し合いをもつ

(5) ボランティア活動の促進―「寺子屋教室」(深谷市藤沢地区境)―

ボランティア意識の高揚を図るための事業を実施し、社会参加活動の活性化を推進する。ここでは、深谷市藤沢の境地区でのボランティア活動「寺子屋教室」を紹介する。

ア 取組の現状

「寺子屋教室」は、共働きや核家族の家庭が増えている昨今、夏休みに子どもが1人で過ごすことが少なくなるようにという思いから、平成24年から始められた。夏休み中の10日間ほど、午前中の時間を使って学校の宿題をしたり、遊んだりするものとなっている。宿題のほかにも、講師を招いて、「スライム作り」や「バルーンアート」、「ブーメラン作り」などさまざまな行事も行っている。

イ 課題

- (ア) 夏休み中の参加児童の動静把握を確実に把握する。
- (イ) 学校のスケジュールを把握して開催時期を決める。
- (ウ) 講師による開催には、児童の参加状況を事前につかむ。
- (エ) 人的補充や財政的援助など自治会に依頼する。

ウ 方策

(ア) 社会のルールやマナー、人付き合いなどを学ぶ機会になるため、継続する。

(イ) 地域で子どもを育てる努力を重ねる。

(ウ) たくさんの目で子どもたちを見ることで、子どもたちの安心・安全につながる。

(6) 青少年健全育成活動の促進

地域の青少年健全育成に係る活動を支援する。

ア 取組の現状

(ア) 地域の青少年健全育成深谷市民大会

a 市内全中学生による主張発表と表彰

b 手紙でつむぐ「ありがとう」作品発表と表彰

(イ) 各公民館における取組（再掲・世代間交流）

・ホタル鑑賞会、渋沢栄一翁誕生会 ・マス釣り大会 ・サケの稚魚放流

・国蝶オオムラサキ放蝶体験 ・オリジナルうちわ教室 ・土器づくり教室

・お菓子作りと手品 ・3世代交流グランドゴルフ大会 ・もちつき大会

・ミニ門松作り

(ウ) スポーツ少年団活動（任意団体）

10種目47団体、1,100人の団員(小学生1～6年生 加入率約14%)が保護者等の協力を得ながら年間をとおして様々な活動を継続的に実施している。また、指導者・保護者の研修会を開催し、活動への理解を深めている。

a スポーツレクリエーション大会

毎年、仙元山陸上競技場を会場に、子ども・保護者及びその家族・指導者

1,200人ほどが1日スポーツレクリエーション活動を共に楽しみ交流を図っている。種目は野球、サッカー、ミニバス等10種目あり、そのうち7種目は子どもと大人混合で実施している。この日は、サッカーやバスケット、バレー、柔道等から離れ、子どもも大人も笑顔があふれ伸び伸びと活動し、異種目の交流が図られている。昼休みには、深谷市民踊連盟の方100名ほどが先導し、参加者全員で「おねぎのマーチ」を踊る。

イ 課題

(ア) 事業への参加状況は十分とは言えないこともあり、実施時期や回数、事業内容等を工夫しながら、その意義や結果を地域住民へより丁寧に説明していく必要

がある。

- (イ) 子育て世代の親たちが子どもとともに参加し、さまざまな体験をとおして人々とのコミュニケーションを図り、地域での存在感を味わってもらうことが重要と考えられる。

ウ 方策

- (ア) 子ども中心のメニューをさまざまな観点から見直し、事業内容を精査し、実施時期や回数、内容に検討を加えるとともに、事業によっては単発的なものから継続的なものへ変えていく。
- (イ) 文化的なものやスポーツ的なもの等、子どものニーズを把握しながら、より魅力あるプログラムを作り、より丁寧な案内をするとともに、成果を発表できる機会を設けることが必要である。
- (ウ) 公民館運営審議会の研修を定期的実施し、社会教育及び公民館活動への理解を深めることが必要である。

3 まとめ

今回の提言をするにあたり、子ども部会は、本市の取り組む地域の教育力の向上施策を踏まえ、「取組の現状」、「課題」、「方策」について考察をしてきた。その結果、次のようなことが見えてきた。

- (1) 今日、学校・家庭・地域の連携・協力や、社会教育と学校教育の連携事業等については、概ね良好に進められてきているが、その進め方においては、未だに担当者の試行錯誤の努力に負う部分が多い。
- (2) 連携の意義やメリットについての関係者間の共通理解が十分でなかったこと等により事業の推進・定着が思わしくないという事例も見られることなど、必ずしも全ての面で円滑に進められているとは言えない状況もある。
- (3) 地域の教育力向上のためには、学校・家庭・地域の連携の一層の強化・充実を図るとともに、特に学校教育と社会教育が連携・協力して、事業や活動に取り組む際に予想される課題等を整理し、より効果的・効率的な推進方策や留意すべき事項等を考えて進めることが必要である。
- (4) 少子化のために単独の公民館では事業を開設できない状況がある。そのため、いくつかの公民館が連携し合い、共同して事業を進める必要がある。

(5) 土、日曜日を一人で過ごす子どもたちへの対応として、特に長期休業中において、地域が行政、学校、家庭と連携して対策を考える必要がある。

結びに、現在、深谷市の公民館や各地域で取り組んでいる事業が、行政及び家庭との連携を深化することで、子どもを育てる地域の教育力がさらに向上することを願う。

Ⅲ 大人部会からの提言

今日、公民館等の社会教育施設が中心となり、地域の課題解決に向けた学習活動を支援し、普及していくなど、「学びの場」を核とした地域コミュニティの形成を進めることが期待されている。

現在、本市における地域の教育力向上に関わる取組は、公民館が担っており今後ますますその役割が重要となってくる観点から、大人部会では公民館に照準をあて調査研究することとした。

1 地域の教育力向上に関わる取組の現状

(1) 深谷市の公民館における学級・講座の現状

ア 開設している学級・講座数—(平成22年度～平成26年度)の実施状況—

年度 学習内容別	26年度	25年度	24年度	23年度	22年度
教 養 の 向 上	34.5%	44.5%	49.7%	33.5%	36.1%
体育・レクリエーション	20.6%	18.8%	19.7%	27.8%	26.8%
家庭教育・家庭生活	14.5%	17.9%	16.7%	20.8%	20.6%
職業知識、技術の向上	0.1%	0.2%	0%	0.4%	0%
市民意識、社会連帯意識	7.1%	2.7%	2.2%	3.7%	1.0%
そ の 他	23.2%	15.9%	11.7%	13.8%	15.5%

※上記の学習内容の分類は、文科省の社会教育調査による

イ 学級・講座の具体的な取組内容

地域の人たちが豊かな人間関係を築きながら、それぞれの自己実現を目指していけるようになれば、地域の連帯感が高まる。地域の連帯感が高まることにより地域の教育力の向上につながると考える。

そこで、上述の学習内容別の学級・講座を「地域の教育力を高める」ための具体的な取組として、次の5つに分けてまとめてみた。

(ア) 地域のために何かしたいという人の輪を広げる取組

たくさんのサークルやグループが活動することによって、地域に活力を与え住民の意識の高揚につながる。

- かわもと福寿草大学 ○施設訪問 ○うたの寺子屋
- 介護予防教室 ○シルバーゼミナール ○花の郵便屋さん
- お灸教室 ○子育てサロン ○渋沢栄一翁史跡めぐり
- 地域づくり事業 ○ローンボウルズ教室 ○ガーデニングボランティア
- 大人のカクテル教室 ○いきいきコミュニティカレッジ
- 女性教室「ハーブでリフレッシュ体験教室」

(イ) 青少年のこれからの社会生活につながる取組

地域の大人が直接子どもたちと関わり、これからの社会生活を体験させることにより、地域の教育力が直接子どもに作用する。

- 事業所訪問 ○明るい選挙話し合い講座 ○生物研究学習(小学生)
- バスハイク(小学生) ○青少年スキー教室 ○青少年スポーツ大会
- 少年少女マラソン大会 ○夏休みわんぱくランド(小学生)

(ウ) 家庭教育を支援する取組

子育て中の親を支援することは、地域にとっても重要な課題である。

- 親の学習講座 ○影絵の会 ○親子サイクリング
- ふれあい子育て講座 ○クリスマスお話し会 ○マス釣り大会(大寄)
- 親子探検バスツアー ○夏休み子ども映画会 ○親子グランドゴルフ大会
- 子ども講座「おもしろ実験教室」

(エ) 異年齢・世代間の交流

「地域の教育力」は、もともと異世代の人々の交流の中で練り上げられて継承され、このような取組を通して地域に生きる生活の知恵が直接子どもたちに注がれていくものである。

- 竹トンボ作り教室 ○昔の遊び教室 ○まゆ玉づくり
- 公民館まつり ○上柴地区七夕コンクール ○地区体育祭
- みなみふれあい広場 ○文化祭

(オ) コミュニティの学習

地域の中で地域のために活動する大人の姿を子どもたちに見せることも大きな教育力になる。

- 人権を考える集い ○地区敬老会 ○歴史探訪 ○防犯パトロール
- ふれあいハイキング ○子ども安全・安心パトロール ○しめ飾りづくり

◎行政をもっと知ろう出前講座、自然環境講座(上里町)

◎あなたの終活応援講座(狭山市)

エンディングノートの必要性と上手な活用法、成年後見制度と相続や遺言のあり方

○ふるさと学級(狭山市)

(3) 深谷市並びに他県・他市町の公民館の活動を通して

住民が地域の教育力を高める活動に参加・参画することにより、その人自身の自己実現を図ったり、よりよい社会を実現することの一助になる。加えて、次代を担う子どもたちの育成にとっても重要なことである。

このような視点から本市の状況を見ると、○「青少年のこれからの社会生活につながる取組」、○「家庭教育を支援する取組」に関する学級・講座がやや少ないようである。

2 地域の教育力向上を図る方策—公民館に期待したいこと—

(1) 公民館と分館長との連携

地域の教育力を高めるためには、地域の代表である分館長（自治会長）との連携が不可欠である。

ア 分館長の在り方

(ア) 研修会の開催

単年で分館長が交代する地域もあるので、分館長を対象にした研修を毎年開催し、市内全域における地域の教育力を高めるための態勢づくりが重要である。

(イ) オピニオンリーダーとしての役割

常に地域の実態を把握し住民からの要望実現のために行政へ働きかける。また、地域で取り組む必要のある事項は、公民館との協議・相談を通してその実現を図り、地域の教育力の向上に努めていくべきである。

イ 公民館職員の在り方

(ア) 公民館運営審議会の活性化

地域の実情に応じて関係団体からの委員で構成されているが、今後、組織の見直しや住民主体の公民館運営に向けた取組が必要である。

(イ) 広域・連携事業の取組

教育環境や地域環境の整備などの課題解決には、広域的に取り組むことが効果的な場合もあるので、他の公民館や関連施設・団体などと連携し広域事業として実施していくことも必要な視点である。

(2) 講座の充実・発展の方策

各公民館は、平均25前後の講座を開設している。その実施状況を見ると、内容によっては受講希望者が多く定員を超える例もあるが、全体的には受講者集めに苦勞している場合が少なくない。

このため各公民館では、今日的な内容（「ハーブ講座」、「健康関連講座」等）を開設するなどの工夫や努力をしている。しかしながら、定員を超える講座も見られるが、毎年同じ講座の繰り返しも多く、受講者が減少してきているのも現状である。

ア 人材バンクの設置とその有効活用

各館で地域人材の発掘を行い、開設する講座の指導者として活用を図る。

イ 講座開設日や時間の柔軟化

土・日曜日や夜間に開設することにより、現役・若者世代の参加を容易にする。

ウ 地域住民の講座ニーズを把握

公民館だよりや講座アンケートを実施し、希望する講座の把握をする。その結果から年次計画を立て主催講座を再検討したり、公民館運営審議会で話し合うなど見直しを図る。

(3) 登録団体の今後の在り方

利用者の登録団体数は800を超え、その人数も1万人を上回るなど、自主的な活動が公民館を中心に展開されていることが分かる。これは、市内のどこの公民館に登録しても公民館を利用できるという本市の特徴的な制度が利用数を伸ばしているゆえんであろう。

ア 人材と団体の育成

公民館の講座から発展して、受講者による自主的なサークル化を進めたい。そこで、公民館の講座で培った基礎技術や人間関係を発展させるよう働きかける。そのためにも指導者やリーダーの養成に努めていきたい。

イ 各団体のネットワーク化

公民館で活動している個人や団体・サークルを支援し、関わっている人たちのネット

ワークを広げていくことが大切である。

(4) 学校と地域との連携

地域の教育力を高めていくためには、学校と地域との連携が欠かせない。双方が一体となって子どもたちの様々な体験活動を支援することによって、学校では成し得ない創造的な教育が展開できると期待される。

地域には、子どもに関わりたい人や一般企業・商店等にもたくさんの協力者がおり、公民館には、学校と地域との連携の架け橋として、地域社会の活性化につながる情報提供や事業展開が望まれる。

(5) 高齢者の人材活用

高齢者社会がますます進む中で、今後、高齢者の持っている豊富な社会経験や知識や技能を発揮してもらえよう高齢者の社会参加を促進していきたい。

公民館には、意図的にしかも継続的に高齢者などの人材発掘に取り組むとともに、高齢者が地域文化の伝承やボランティアとして地域へ還元する機会を提供していくことが望まれる。

3 まとめ

大人部会では、これまで本市における公民館の取組について調査研究を重ねてきた。調査結果にあるように公民館は、地域の人々に最も身近な学習や交流の場として、それぞれの地域性を生かし、多種多様な事業への取り組みをしていることが分かる。

地域の教育力を高めるためには、地域のより多くの人々が繋がることが大切である。大人が繋がるためには、大人たちが地域活動に楽しんで参加すること、また、参加することが何らかのプラスになることが重要である。

特に、これまで地域活動に参加する機会が少なかった中・高校生や青年層に対し、公民館活動等をきっかけに意図的に地域活動への参画の機会を作っていくことが大事である。

今後も、各公民館には、時代のニーズを先取りしながら、地域のより多くの人々が繋がるような事業に取り組み、地域の教育力を高めることを期待したい。

IV おわりに

地域の教育力の向上を図るには、地域の身近なリーダーとなる人材が必要である。その点では深谷市で実施している「ふかや市民大学」の講座は大変有効である。卒業生の中には、学ぶ意欲をもち、地域の中で何かできないかと考えている有能な人材が多数見受けられる。ボランティアや地域のリーダーとして活動を呼びかけるなど、何らかの施策が必要と考えられる。

また、地域の教育力の向上には、地区住民の多くの人々の繋がりが大事であり、伝統芸能の継承や地元で行われる諸行事を通して大人や子ども達の参加を図るなど分館長（自治会長）の強いリーダーシップが望まれるところである。

本市では、各地区にはそれぞれに整った施設の公民館やふれあいセンター（自治会館）が設置されており、社会教育活動の場所として恵まれた環境にある。この良好な環境の活用を図るとともに、社会教育の第一線である公民館が取り組んでいる各種事業に、地域住民が積極的に参加できるような施策を講ずるべきと思料する。

最後に、この提言書を作成するに当たり、ご協力をいただいた関係各位に心から感謝申し上げますとともに、深谷市社会教育委員会議ではこれまでの会議や研修で得た貴重な経験を生かし、これからも社会教育の活動や社会教育行政への参画に取り組む所存である。

参 考 资 料

1 国・県・市における地域の教育力向上に関する施策

(1) 国

ア 「今後の生涯学習の振興方策について」－中央教育審議会答申(平成20年)－

○ 目指すべき施策の方向性

社会全体の教育力の向上一学校・家庭・地域が連携するための仕組みづくり

・身近な地域における家庭教育支援

きめ細かな学習機会、情報の提供、相談対応など

・学校を拠点に地域ぐるみで子どもの教育を行う環境づくり

学校支援の仕組みづくり、放課後の居場所づくり

・社会教育施設等のネットワーク化

公民館、図書館、博物館の活用

・大学等との連携

イ 「絆づくりと活力のあるコミュニティの形成」－教育振興基本計画(平成25年)－

○ 社会が人を育み、人が社会をつくる好循環

・学習を通じて多様な人が集い協働するための体制

ネットワークの形成など社会全体の教育力の強化や、人々が主体的に社会参画し相互に支え合うための環境整備

(今後の社会の方向性－「自立」、「協働」、「創造」の3つの理念の実現に向けた生涯学習社会を構築－)

ウ 「絆づくりと活力あるコミュニティの形成に向けた体制づくりの推進」

－第6期生涯学習審議会(平成26年)－

○ 学びの場を核にした地域コミュニティの推進

・地域住民が学習活動を通じて絆を形成し、コミュニティへの参画や地域課題の解決を図っていくことの重要性が増している。

このため、公民館等の社会教育施設が中心となり、地域の課題解決に向けた学習活動を支援し、普及していくなど「学びの場」を核とした地域コミュニティの形成を進めることが期待される。

(2) 埼玉県

ア 「みんなでつくる生涯学習社会を目指して」－生涯学習審議会答申(平成 25・26 年)－

○ 学び合い、共に支える社会

今後、地域の自主・自立の活動により、既存のコミュニティをより強化し、人と人、人と社会とのつながりを深める学び合いや支え合いの場を広げていくことが重要である。

このようなことから、地域には、学校、公民館、図書館、博物館、カルチャーセンター、学習塾など様々な学習の拠点があり、これらの環境が十分整備されることが望まれる。

(3) 深谷市

ア 「地域の教育力の向上」－教育振興基本計画－

○ 基本理念－立志と忠恕の深谷教育－

・家庭や地域社会における教育を充実するとともに、市民一人一人が豊かな人生を送り、社会に貢献できるよう生涯にわたる学びやスポーツレクリエーション活動ができる環境を整備する。(生涯学習の観点)

○ 7つの施策の基本目標のⅣ－『地域の教育力の向上』－

・「世代間交流事業の推進」、「学校教育・社会教育の連携」、「ボランティア活動の促進」、「青少年健全育成活動の促進」を掲げている。

2 全国の公民館の学級・講座の開設状況－平成 23 年度社会教育調査(3 年毎に実施)－

年度	22年度	19年度	16年度	13年度	10年度
学習内容別					
教 養 の 向 上	52.3%	52.3%	61.7%	58.8%	61.0%
体育・レクリエーション	17.8%	16.5%	12.6%	14.5%	12.9%
家庭教育・家庭生活	19.5%	20.9%	9.6%	10.2%	11.1%
職業知識、技術の向上	1.0%	0.7%	4.1%	5.4%	1.8%
市民意識、社会連帯意識	7.3%	7.3%	5.9%	5.8%	7.6%
そ の 他	2.0%	2.3%	6.0%	5.3%	5.6%

3 深谷市の各公民館における登録団体数

区分 公民館名	青少年	一般(成人)	一般(高齢者)	計
深谷	6	42	49	97
藤沢	9	41	27	77
幡羅	14	75	50	139
明戸	12	40	9	61
大寄	5	18	15	38
八基	2	17	11	30
豊里	4	19	11	34
上柴	10	29	14	53
南	11	48	42	101
岡部	2	17	45	64
川本	3	38	29	70
花園	44	80	4	128
合計	122	464	306	892

深谷市社会教育委員会議 活動記録

日付	場所	内容
平成26年 7月15日	教育庁舎	第1回深谷市社会教育委員会議・委嘱式
10月6日	深谷公民館	第2回深谷市社会教育委員会議
10月20日	上里町役場	平成26年度北部地区社会教育関係委員・職員基礎研修会 演題：「青少年の健全育成における社会教育委員の役割」 講師：文教大学学長 野島正也 氏
11月20日 21日	鎌倉芸術館	第45回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会 (※議長・副議長参加)
12月2日	深谷公民館	平成26年度第28回大里地区公民館研究集会 演題：「大里地区の地形と自然災害」 講師：埼玉県立自然の博物館 主任学芸員 井上泰子 氏
12月18日	深谷公民館	第3回深谷市社会教育委員会議
平成27年 1月14日	深谷公民館	第4回深谷市社会教育委員会議
1月23日	埼玉県三芳町 石坂産業(株)	平成26年度大里地区社会教育委員連絡協議会視察研修
2月27日	深谷公民館	第5回深谷市社会教育委員会議
3月27日	深谷公民館	第6回深谷市社会教育委員会議
4月22日	深谷公民館	第7回深谷市社会教育委員会議
5月21日	花園公民館	第8回深谷市社会教育委員会議
5月26日	国立女性教育会館	平成27年度埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会 総会・研修会 演題：「若者の居場所を考える」 ～ただ「いる場所」から「つながる場所」へ～ 講師：一派社団法人 Moonlight Project 代表 平野和広 氏

5月28日	深谷公民館	平成27年度大里地区社会教育委員連絡協議会定期総会・記念講演会 演題：「元気な公民館をめざして」 講師：全国公民館連合会理事、フリーアナウンサー 村松真貴子 氏
7月8日	明戸公民館	第9回深谷市社会教育委員会議・委嘱式
9月16日	藤沢公民館	第10回深谷市社会教育委員会議
10月26日	大寄公民館	第11回深谷市社会教育委員会議
11月5日 6日	バイシア文化センター 群馬県生涯学習センター	第46回関東甲信越静社会教育研究大会群馬大会
11月18日	上柴公民館	第12回深谷市社会教育委員会議
12月1日	寄居町役場	平成27年度第29回大里地区公民館研究集会 演題：「これからの公民館事業に期待すること」 講師：寄居町商工会会長 柴崎猛 氏
平成28年 1月22日	南公民館	第13回深谷市社会教育委員会議
2月5日	加須北中学校 サト卫記念21世紀美術館	平成27年度大里地区社会教育委員連絡協議会視察研修
2月16日	幡羅公民館	第14回深谷市社会教育委員会議
4月13日	深谷公民館	第15回深谷市社会教育委員会議
5月11日	教育庁舎	第16回深谷市社会教育委員会議
5月26日	寄居町役場	平成28年度大里地区社会教育委員連絡協議会定期総会・記念講演会 演題：「あなたの愛が人々を救う」 講師：児童文学作家 上条さなえ 氏
5月31日	国立女性教育会館	平成28年度埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会 総会・研修会 演題：「ものづくりでつながりを作ろう！」 ～ボランティアから生み出すリーダーシップ～ 講師：CRAFTMAN 世田谷 白井紘 氏
6月24日	教育庁舎	第17回深谷市社会教育委員会議

深谷市社会教育委員

任期 平成26年7月1日～平成28年6月30日

	氏名	選出団体・機関	備考
1	柏村 行男	南公民館	議長
2	近藤 英治	藤沢公民館	副議長
3	荒木 宏治	小学校校長代表（上柴西小学校）	～平成27年3月31日
	篠崎 正明	小学校校長代表（深谷小学校）	～平成28年3月31日
4	清水 勉	中学校校長代表（花園中学校）	～平成27年3月31日
	北川 博	中学校校長代表（上柴中学校）	～平成28年3月31日
5	戸塚 勇	PTA連合会代表（榛沢小学校）	～平成27年5月15日
	岡 仁	PTA連合会代表（川本北小学校）	
6	後藤 高明	子どもサポート市民会議代表	
7	吉澤 正則	人権教育推進協議会代表	
8	倉上 武雄	生涯学習スポーツ振興課	
9	高田 清美	生涯学習スポーツ振興課	
10	根岸 雅子	深谷公民館	
11	林 功	幡羅公民館	
12	飯塚 富美男	明戸公民館	
13	宮澤 達三	大寄公民館	
14	蛭川 隆司	八基公民館	
15	八巻 紀男	豊里公民館	
16	柴崎 俊夫	上柴公民館	大人部会代表
17	小暮 利明	岡部公民館	
18	野澤 優	川本公民館	
19	河田 耕一	花園公民館	子ども部会代表